

2012年度 大学院 総合プロジェクト課題概要票

□ 科目名 総合プロジェクト

1. テーマ(明確に内容がわかる表記とする。サブタイトルを付してもよい)

Speak and Challenge in English -芸工英語村 2012-

2. 担当教員(複数2名以上の大学院担当教員で構成)

岡村 光浩(代表)・見寺 貞子・小倉繁太郎・佐久間 華

3. 内容説明(課題概要や年間スケジュール等)

前期開講の基幹科目「アカデミックリテラシー」のプログラムは、アカデミックな内容につき英語で「書く」ことに重きを置いた構成となっているが、本プロジェクトでは、「英語で話す(発表する)」ことを最重要視した活動を行う。ポトムラインとして「自分の研究テーマについて英語で話せる(プレゼンテーションできる)こと」を目標とする。(この目標は「アカデミックリテラシー」の「自分の研究テーマを英語で書けること」と対をなす)。

定例ミーティングは夏休み明けから、授業期間中、原則週1回実施を予定しているが、細目については、夏休み前に事前ミーティングとヒアリングを行い、登録メンバーの希望と現在のレベルを確認した上で、夏休み中に行う下準備を含めて決定したい。

ゴールとしては、上記の目標を目指しての成果発表の場として、第三者を前にして「自分の研究テーマについてよく知らない相手に英語で発表する機会」として(1)12月の総合プロジェクト発表会(主たる対象:大学院生並びに教員)(2)1月の学部授業(主たる対象:学部生)の2回を設け、そこでのプレゼンテーションを、わかりやすく、また自信を持って堂々と、英語で行うことを目指す。そのために、メンバー相互の指摘や、海外での博士号取得者を含む担当教員や『ニホン英語は世界で通じる』の著者でもあるアドバイザーからの助言を受けたり、海外で修士号を取得し大学教員としての経験も有する企業広報マネージャーをゲストに迎えてのワークショップ(マインドマップ等を用いての思考整理法など)に参加したりしながら練習を重ねることが主な活動となる。

なお本プロジェクトと別に学内外で英語プレゼン(アジア青年建築交流会議・ユネスコ国際ワークショップ・個人で参加の学会発表等)を行う者が、そこでのテーマを「持ち込み練習」することは歓迎する。プロジェクトメンバーの前で「予行演習」を存分に行ってもらい、メンバー全員でブラッシュアップに協力し、また成果を共有してもらいたい。

上記の他にもメンバーから英語で取り組んでみたいことのアイディアを積極的に出してもらい、柔軟に軌道修正しながら進めたい。

4. 受入れ予定人数(履修条件)

英語を母語または公用語・準公用語としない者を原則とし、数名程度

※基幹科目「アカデミックリテラシー」の受講を、必須とはしないが推奨する。

5. 予算案

100,000円(「アドバイザー」への謝金として支払い予定)

(「アドバイザー」予定者(交渉中含む))

・末延峯生氏(兵庫県立大学名誉教授)ほか本学英語科非常勤講師陣

・阿久澤 騰(あくざわ・のぼる)氏(株式会社ファランクス広報マネージャー・元日本大学芸術学部文芸学科助手/英・バーミンガム大学大学院修士課程修了/前期に大学院「アカデミック・リテラシー」特別講義講師として「マインドマップとストーリー思考のススメ(仮)」を予定しているが、同様の思考整理法についてのワークショップ(並びに留学経験に基づくアドバイス)を、後期「総合プロジェクト」枠でも実施予定)、ほか